

国立美術館の所蔵作家とは誰なのか

—独立行政法人国立美術館所蔵作品

総合目録検索システムからの把握の試み

水谷長志

1. なぜ所蔵作家なのか

独立行政法人国立美術館を構成する5美術館のうち、国立新美術館を除く4館は独立行政法人国立美術館所蔵作品総合目録検索システム(以下、4館総合目録と記す)において、そのコレクション情報を公開している¹⁾。国立西洋美術館においては並行して、別途作品検索を公開維持している²⁾。

本サイトのトップ画面(図1)から分かるようにキーワード検索のほかに、「ジャンル検索」「作品題名検索」「作家名検索」「作家名読み検索」「制作年代検索」「複合検索」を用意している。図2、図3は詳細データの凡例および画像付き作品事例である。

作家名からの検索は、人名の直接入力のほか、50音一覧からの作家名読み検索があり、図4の通り、当該作家の作品が国立美術館のいずれの館に所蔵されているかを容易に把握できる一覧が表示される。



図1 4館総合目録検索トップ画面 <http://search.artmuseums.go.jp/>

美術館のコレクションの形成あるいはライブラリの蔵書構築やレファレンス情報源として、所蔵作家情報の把握が重要であることはあらためて記すまでも無いことであろう。現在、その収録作家数と情報量において最大の作家名一覧は、The Getty Research Instituteによる図5のULAN³⁾であろうが、図6⁴⁾の通り、北脇昇においては、その情報源 (Sources and Contributors)は英語圏のものに限られる。

本稿は「科学研究費補助金(基盤研究(B)) : 課題番号 26280125 (平成26年度~平成28年度)「ミュージアムと研究機関の協働による制作者情報の統合」(代表:丸川雄三[国立民族学博物館])」の一環によるものであるが、研究代表者の丸川氏が「美術分野における制作者情報の統合—制作者データベースの実現を目指して」⁵⁾において、「制作者情報をミュージアム間で統合しようとした場合には、制作者名の表記のすり合わせや典拠情報の確認などの作業が必要となる。しかし統合への系統的な取り組みはほとんどなされていないのが実情である」と指摘しているのが現状である。

その中であって、謂ゆる人名典拠ファイルとしての美術家のための情報ファイルとして、下記の通り4,400件を越える国立美術館の所蔵作家に関わる4館総合目録の「作家名[典拠]ファイル」に蓄積されたデータの価値は相当に高いものとする。さらに言えば、Getty-ULANとの接合についても、科研の作業の展開によっては今後十分可能性があり、特に漢字ならびに読みの表記は対外的にも高い有用性がある⁶⁾。

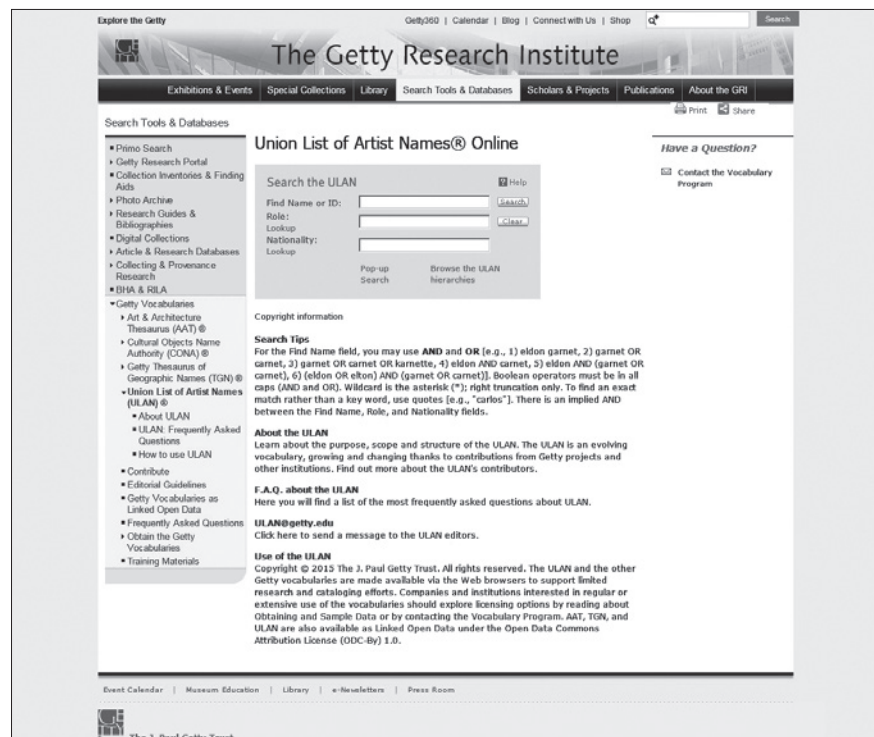


図5 ULAN トップ画面 <http://www.getty.edu/research/tools/vocabularies/ulan/index.html>

Research

Research Home > Tools > Union List of Artist Names > Full Record Display
Help

Union List of Artist Names® Online

Full Record Display

← Previous Page

Click the icon to view the hierarchy.

Semantic View (JSON, RDF, N3/Turtle, N-Triples)
ID: 500320584 **Record Type: Person**

Kitawaki, Noboru (Japanese painter, 1901-1951)

Names:
Kitawaki, Noboru (preferred,U,index)
Noboru Kitawaki (U,display)

Nationalities:
 Japanese (preferred)

Roles:
 artist (preferred)
 painter

Gender: unknown

List/Hierarchical Position:
 ... Persons, Artists
 Kitawaki, Noboru (I,U)

Biographies:
 (Japanese painter, 1901-1951) [Grove Art Preferred]
 (Japanese painter, 1901-1951) [ARTstor]

Sources and Contributors:
 Kitawaki, Noboru [ARTstor Preferred, Grove Art Preferred]
 Grove
 Grove Art artist database (1989-)
 Grove Art Online (2008-)
 Noboru Kitawaki [ARTstor, Grove Art, VP]
 Getty Vocabulary Program rules
 Grove Art Online (2008-)

Subject: [ARTstor, Gallery Systems, Grove Art]
 Gallery Systems (2000-) LOC ID: nr98007008
 Grove Art artist database (1989-)
 Grove Art Online (2008-)
 Library of Congress Authorities database (n.d.) LOC ID: nr98007008

▲ Back to top

Printer-friendly version

The J. Paul Getty Trust

© 2004 J. Paul Getty Trust
[Terms of Use](#) / [Privacy Policy](#) / [Contact Us](#)

図6 ULAN Kitawaki, Noboru (Japanese painter, 1901-1951)
http://www.getty.edu/vow/ULANFullDisplay?find=Kitawaki&role=&nation=&prev_page=1&subjectid=500320584

表2 独立行政法人国立美術館(4館)所蔵作品総合目録における画像掲載の許諾状況(2015.12.08)

調査年度 (下段は%)	ジャンル	調査対象 作家数	送付件数	諾	否	宛先不明 返送	無回答	返送+ 無回答
		2,477	2,034	1,634 80.33	17 0.84	162 7.96	221 10.87	383 18.83
平成18年度	日本画	322	267	216	4	22	25	
平成19年度	油彩その他	523	487	397	5	42	43	
平成20年度	彫刻	212	196	150	3	20	23	
平成21年度	版画	325	266	212	0	26	28	
平成22年度	写真	79	75	66	0	2	7	
平成23年度	水彩・素描・その他	406	243	178	5	33	27	
平成24年度	工芸[陶磁]	212	182	157	0	3	22	
平成25年度	漆工+染織	204	146	119	0	4	23	
平成26年度	ガラス・木工・竹工・人形・金工・その他の工芸・工芸資料	194	172	139	0	10	23	

調査対象作家数と送付件数の誤差について

- ①作家1人に複数の著作権者が存在
- ②原則、日本美術家連盟等に所属、著作権業務が委託された作家については文書を送付せず(送付の時点で加盟の有無が不明で発送などの例外有り)
- ③調査時に著作権者および連絡先が判明しなかった作家は文書を送付できず

所蔵作家数 (4館単純総和)	5,194		
著作権無し作家数 (4館単純総和)	929	17.89	%
著作権有り作家数 (4館単純総和)	4,265	82.11	%

<http://search.artmuseums.go.jp/>

4館総合目録はその「履歴」⁹⁾にある通り、2005年3月1日に試行版公開、翌年の2006年1月31日に本版を公開している。ちなみに英語版本版は2007年3月6日に公開。加えて2006年度からは[表2]の通り、日本画から順次ジャンルごとに画像公開のための著作権許諾の申請を法人理事長名において発行し、2015年度にデザイン系の許諾申請を進めることで、ほぼすべてのジャンルを一巡したことになる。

[表2]においては、年度ごとの著作権許諾申請した作品種別と著作権許諾申請の調査対象作家数、送付件数、回答「諾」、回答「否」、宛先不明返送、無回答および返送+無回答の実数をまとめている。

回答「諾」が80.33%、回答「非」が0.84%であることから、著作権者からは4館総合目録へ多くの賛同をいただいていると思われる。一方、宛先不明返送が162件、7.96%であり、謂ゆる「孤児作品(Orphan Works)」である。無回答と合わせると383件、18.83%に昇ることは、文化庁長官の裁定制度の見直し、緩和の動きとも連動して、留意すべき課題である。

3.2. 4館総合目録における今後の課題

最後に4館総合目録における今後の課題を3点、指摘しておきたい、

第一は、昨年2015年6月6日のアート・ドキュメンテーション学会年次大会での馬淵明子理事長の基調講演「法人・国立美術館の野望」および「(独)国立美術館理事長 馬淵明子氏に聞く:「法人・国立美術館の野望」—全国の美術館をリードする」¹⁰⁾に示された4館総合目録(あるいは次世代データベース)における作品データの精緻化と国際標準への到達の課題である。すでに10回を越える「国立美術館デー

タベース作成と公開に関するWG」での議論は、次年度においては実装への試みのタイミングに入っている。

2つ目は、「デジタルアーカイブの連携に関する実務者協議会」の第1回(2015年11月25日開催)において示された¹¹⁾、Europeana¹²⁾型アグリゲータモデルによるデジタルアーカイブの連携先が、日本においては国立国会図書館サーチ¹³⁾であり、文化遺産オンライン¹⁴⁾であることを想定するならば、国立美術館の画像公開の許諾が4館総合目録においてである事との親和性を、いかに担保できるのかをいままらでも再考する必要があるだろう。なお、4館総合目録からこの2者へのメタデータ連携については実装が完了している。

3つ目は、許諾を得ながらいまだデジタル画像の用意掲載に至っていない事態の改善を上1に挙げた課題と並行させて実行する体制について、各館レベルから法人レベルで見直す必要があるだろう。

(水谷長志/独立行政法人国立美術館本部情報企画室長、
東京国立近代美術館企画課情報資料室長)

註

- 1) <http://search.artmuseums.go.jp/> 以下、URLは2015年11月30日に確認済み。
- 2) <http://collection.nmwa.go.jp/artizeweb/>
川口雅子「国立西洋美術館所蔵作品システムの公開」『アート・ドキュメンテーション通信』No.77(2008.4.25)、22頁。
- 3) <http://www.getty.edu/research/tools/vocabularies/ulan/index.html>
- 4) http://www.getty.edu/vow/ULANFullDisplay?find=Kitawaki&role=&nation=&prev_page=1&subjectid=500320584
- 5) 『アート・ドキュメンテーション学会秋季研究発表会予稿集』(2015年11月14日)、25-26頁。
- 6) 2015年11月27日に開催したJAL2015公開ワークショップにおいては、人名を含み、日本のデータベースにローマライズしたデータ項目の設置を望む声が多く聞かれた。<http://www.momat.go.jp/am/visit/library/jal2015/>
- 7) 4館総合目録の「掲載状況」<http://search.artmuseums.go.jp/gaiyou.html>
- 8) 水谷ほか「〈資料紹介〉メディア連携を企図する館史としての『東京国立近代美術館60年史』—「美術館の歴史を一冊の参考図書とする」試み再々論 企画展出品作家総索引の編集・刊行・公開を中心に」『東京国立近代美術館研究紀要』18号(2013.3.31)、82-103頁。
- 9) <http://search.artmuseums.go.jp/rireki.html>
- 10) http://artscape.jp/study/digital-achive/10115413_1958.html
- 11) http://www.kantei.go.jp/jp/singi/titeki2/digitalarchive_kyougikai/index.html http://www.kantei.go.jp/jp/singi/titeki2/digitalarchive_kyougikai/index.html
- 12) <http://www.europeana.eu/portal/>
- 13) <http://iss.ndl.go.jp/>
- 14) <http://bunka.nii.ac.jp/>

Locating Artists Represented in the National Art Museum Collections: Towards an Understanding of the Union Catalog of the Collections of the National Art Museums, Japan

Mizutani Takeshi

The Independent Administrative Institution National Museum of Art has been publishing information concerning the collections of the National Museums (four museums, excluding the National Art Center, Tokyo) since the preliminary trial launch of the Union Catalog of the Collections of the National Art Museums, Japan on March 1, 2005. At the close of fiscal year 2014 (end of March 2015), metadata entries for 38,488 works of art were available, including 14,668 with images. Aside from a 'keyword' field, the system allows search by genre, work title, artist name, and work date, and also has an 'advanced search' function. The artist name search function identifies the works of each artist in the holdings of all the National Museums. The name search can be done by directly inputting the artist name, or by selecting the first letter (or Japanese syllable) of the name. Information regarding artists represented in the collections is obviously important as a source of reference in the formation and development of museum collections and libraries. The artist name authority file data in the system of the National Art Museums, Japan, gives reference to more than 4400 artists represented in the collections of the four museums, and is superior in volume and quality compared to other such systems in the art world. The Union Catalog artist name authority files can list data on the basis of an artist's total number of works (144 artists listed by volume of works, in descending order) held in the National Art Museums, or according works being held in at least three of the National Museum collections (143 artists listed by volume of works, in descending order).

The material introduced is from the project "Myūjiamu to kenkyūkikan no kyōdō niyoru seisakusha jōhō no tōgō" (Museum and Research Institute Cooperative Integration of Artist Information) funded by Kaken (Grants-in-Aid for Scientific Research) for fiscal years 2014 -2016 with Marukawa Yūzō, National Museum of Ethnology, as principal investigator.

(Translated by Cheryl Silverman)